

## たるみ応援ハートブリッジ助成に申請される団体ならびに構成員のみなさんへ

たるみ応援ハートブリッジ助成では、助成申請後、審査員の依頼を受けて公開審査会(公開プレゼンテーション)当日までに、申請事業などについて問合せする場合があります。

そこで、申請団体の皆さんには、問合せがあった時、だれでも円滑に対応できるためのコツをご紹介しますので参考にいただければ幸いです。

まず、助成事業に関する問合せの電話がかかってきたときの対応例を2つ例を挙げてみました。良い例のように対応するには、こういったことが必要なのでしょうか？

### 悪い例 ×

事務局から申請事業について審査員からの質問のメールが届いた。しかし助成金申請の担当者が公開審査会前日まで出張のため不在となっていて、回答のメールが返信できなかった。

### 良い例 ○

事務局から申請事業について審査員からの質問のメールが届いた。助成金申請の担当者は公開審査会前日まで出張で不在だったが、事前に団体内で申請事業の打合せをしていたので、他の構成員が代わりとなって、すべての質問等に回答しメールを返信することができた。

良い例を目指すには、団体の意思統一を図り、申請事業について総意を得ておくことが肝心です。そのために必要なコツを6つご紹介します。それでは順に見ていきましょう。

### 1. まずは団体の設立目的と、解決したい地域課題をみんなで確認！

団体(組織)の目的を端的に、できれば一言で表せるようにするのがベスト。申請書の目的や課題解決など欄が記入しやすくなります。

### 2. 団体がめざすことと、申請事業の課題が一致するかを確認

審査員は、団体の目指すことから申請事業の課題が説明できていると、助成終了後の展開を想定しやすくなります。助成事業の効果やその後の展開を団体内で話し合しましょう。

### 3. 1~2を、団体の代表や担当者だけが考えていてはもったいない！

申請事業について審査員から深く質問された時、うまく回答するためには、団体内で丁寧に議論しておくことが肝心です。その議論をもとに公開審査会へ参加すれば、安心して回答することができます。

#### 4. 自分たちの活動の最終受益者は誰かを端的に答えられるようにしましょう

最終受益者について、具体的に説明できるようにしておきましょう。助成を受け事業を実施すると、どんな人に恩恵があるのかが明解になると、審査員は事業をイメージしやすくなります。

#### 5. 自分たちの活動を平易な言葉で、簡単にまとめるとおトクです

審査員には、助成金の財源となる赤い羽根共同募金を集める代表として高校生がいます。彼らはもちろん、専門家も申請事業について詳しいとは限りません。事業によって解決したい社会的背景や歴史、現状について、簡単に把握できる説明文を考えてみましょう。そして説明文はできる限り専門用語を使わずに仕上げてみましょう。この説明文は今後団体の事を知ってもらいたい様々ところで使えておトクです。助成金申請を機にせっかくなので作ってみてはどうでしょう。

#### 6. 全てにおいて、団体(組織)の総意を得ておきましょう

申請する事業の内容はもちろん、申請書を考える過程で改めて共有された1~5について、団体の意思決定機関(NPO 団体の場合は理事会、総会等)に諮り、必ず団体の総意を得るようしておきましょう。

この6つのコツを踏まえておくと、団体の代表者や助成金申請の担当者が不在の場合でも、他の構成員が代理になって、後の手続きをスムーズに進めることが可能になります。本助成事業だけでなく、他の助成金の申請時にも有効ですので、ぜひ活用してみてください。

#### 引用・参考サイト

NPO 法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会、2014、Change Recipe